



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2004. 2 月号

冬期特別展「食の民具たち」開催中

— 2月29日（日）まで —

特別展の会場に、「ちょっと注目!!」と書いて^{だいたい}オレンジ色のパネルを6枚設置してあります。パネルを設置した民具は、少し変わった形をしていたり、珍しい資料であったりします。なぜこんな形をしているのか、皆様にも考えてもらったり、経験者であれば教えていただきたいと、注目パネルを設置してみました。そのいくつかをご紹介します。



特別展会場

「臼と杵」では、一本の米搗き用の杵をとりあげてみました。その杵はケヤキでできていますが、先端部だけ松の木を継いであります。米を潰さないように柔らかめの素材を用いたのでしょうか？それとも、先端は痛みやすいから取り替えられるように作ったのでしょうか？

「贈答の容器」では、平塚市周辺に特有の民具であるダイカイをとりあげました。ダイカイは、帯祝いやお葬式の際に、赤飯を入れて親族へ贈った大きなお椀で、外は黒塗、中は朱塗の豪華なものです。通常ダイカイはお椀型なのですが、注目パネルを設置したのは四角い箱形のダイカイで、市内では他に例の無い資料です。容器を入れる外箱に、「相州大住郡四之宮村 嘉永五年～」と墨書してあるので、幕末期から市域で使われていたことは間違いありません。どうしてこのダイカイだけ箱形なのでしょう？じつは、これとよく似た容器が山北町のあるお宅にもあつて、そこではメシジュウと呼び、お葬式の際にボタ餅を入れて贈答に使用しています。四之宮の箱形ダイカイもボタ餅を入れたのでしょうか？それとも、やはりお赤飯を入れたのでしょうか？



箱形のダイカイ

実際に民具を使用した人の声を聞くと、民具からもっとたくさんの情報を引き出すことが可能になります。注目パネルの資料をはじめ、展示した食の民具の体験談や、気になる資料へご意見をお寄せいただきたく、会期の途中からですがアンケートを用意しました。寄せられた声を集め、さらに充実した情報を提供できればと考えています。



特別展会場に再現された「昭和のお茶の間コーナー」

彗星がやってくる



今、天文界では2つの彗星が注目されています。今年5月頃に肉眼で見えるくらい明るくなる彗星で、**ニート彗星**、**リニア彗星**と呼ばれています。プラネタリウムではこの2つの彗星をくわしく解説し、実際に見るときの注意点などをお話します。

ニート彗星は、ニート (NEAT) と呼ばれる組織が、アメリカのカリフォルニア州パロマー山にある1.2 mの望遠鏡を使って、2001年8月24日に発見した彗星です。NEATは Near Earth Asteroid Tracking を略したもので、NASAのジェット推進研究所が地球に接近する小惑星などを検索しているプロジェクトのことです。NEATは他にも彗星を発見していて、今回明るくなるニート彗星は、NEATが発見した12個目の彗星になります。一般に彗星は、発見された際に符号が付けられるのですが、この符号によって彗星を呼び分けることがあります。これによると、ニート彗星は C/2001 Q4 NEAT と呼びます。

惑星などの重力を考慮したニート彗星の軌道は、太陽から最も遠ざかった地点(遠日点)までの距離が45000 AU (1 AU=太陽と地球の距離に相当)にもなります。これは0.86光年という途方もなく遠い距離で、彗星のふるさと、オールトの雲付近になります。ですから、ニート彗星はオールトの雲からやってきて太陽へ近づく彗星ではないかといわれています。

地球に近い位置でのニート彗星の軌道は縦方向に立っています。彗星は下から上へと移動し、地球から見た彗星は南から北へと大きく移動して見えることになります。

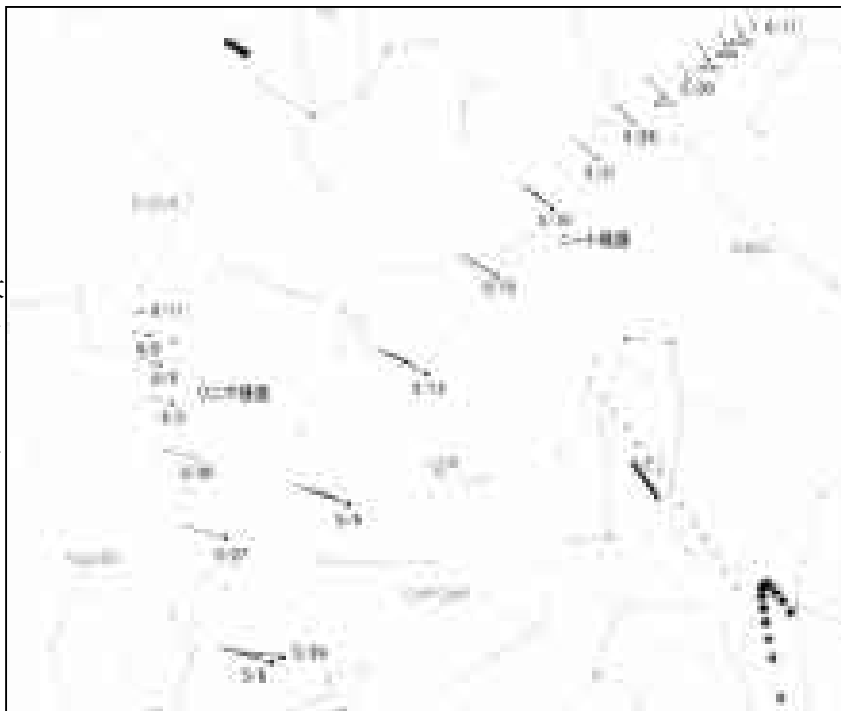
リニア彗星は、リニア (LENEAR) と呼ばれる組織が、アメリカのニューメキシコ州ホワイトサンズにある1 mの望遠鏡を使って、2002年10月14日に発見した彗星です。LENEARは Lincoln Near-Earth Asteroid Reserch を略したもので、マサチュー

セツ工科大学リンカーン研究所が地球に接近する小惑星などを検索するプロジェクトのことです。リニア彗星はLENEARが発見してその名前がついた94個目の彗星となります。彗星は C/2002 T7 LENEAR です。

惑星などの重力を考慮したリニア彗星の軌道は、ニート彗星と同様に、遠日点(太陽から彗星が最も遠ざかった地点)までの距離が40000 AU (0.63光年)にもなります。ですから、こちらもオールトの雲からやってきた彗星ではないかと考えられています。

リニア彗星はニート彗星と比べるとずっと小さな彗星ですが、地球に0.27 AUまで接近しますので、その明るくなるのが予想されます。

2つの彗星の位置の変化 (5月上旬午後9時の西空での星の位置)
2004年5月~2004年6月 (StellaNavigator Ver.5/AstroArtsInc./ASCII Corp.にて作図)

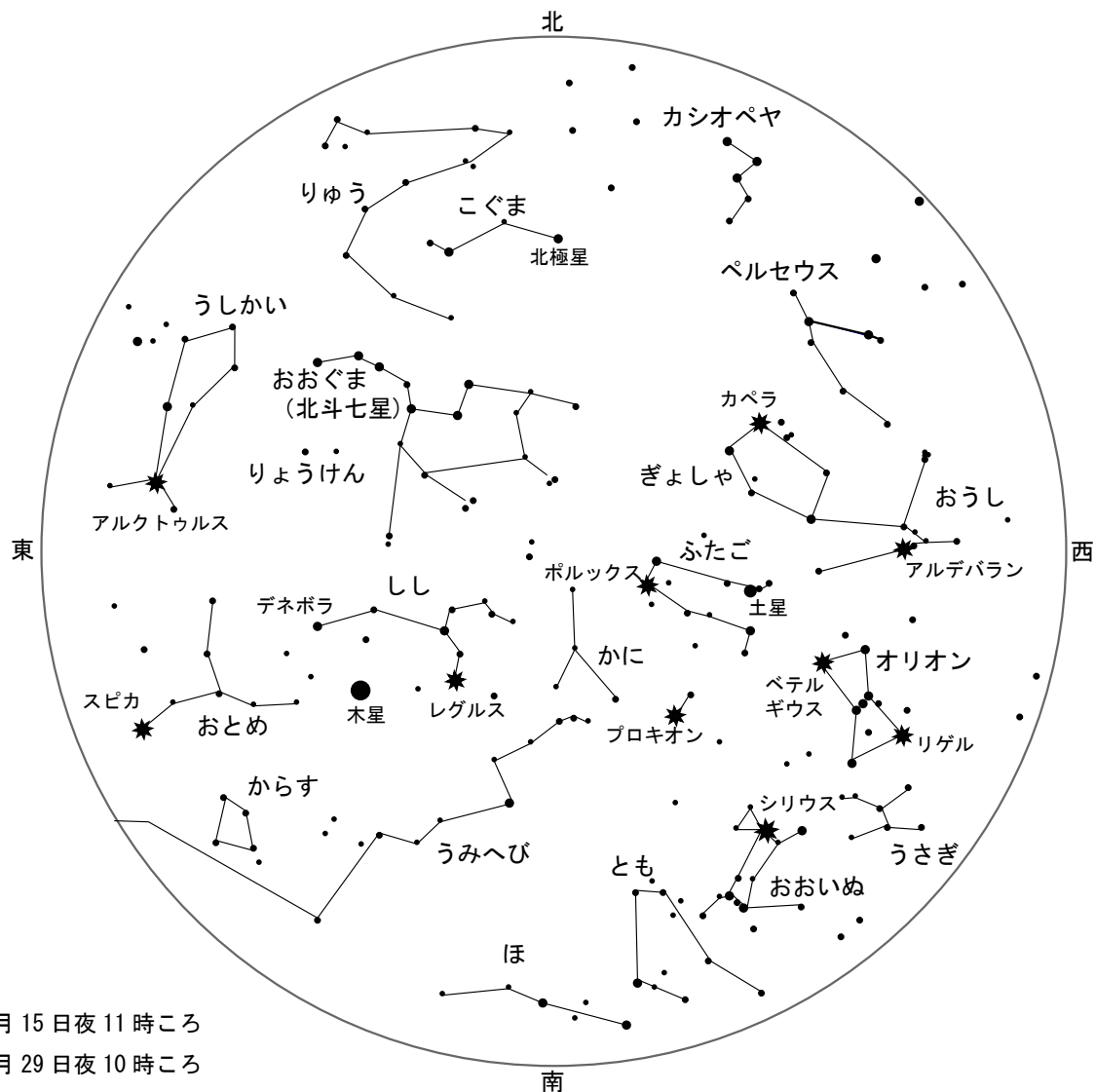


プラネタリウム「彗星がやってくる」

期 間：平成15年2月14日(土)~4月4日(日) 投影日：毎週土、日曜日、3月31日、4月1日

春の星空をみよう☆

暦の上ではもう立春。とはいえ、まだまだ寒い2月に春を感じているのは、植物と星空くらいかもしれません。しっかり厚着して、ちょっぴりやせがまんして、春を告げている星たちを眺めてみませんか？ 18日からの寄贈品コーナーでは、早春の星や星座たちをご案内します。



2月15日夜11時ころ

2月29日夜10時ころ

●しし座・春の大三角形

しし座が、宵の8時ころには東の空に昇って来ます。冬の間は夜ふけでなければ見られませんでした。街の中でも、1等星レグルスと2等星の γ （ガンマ）星が横に並んだようすが目につくはずですが、ししのライオン、今春は光り輝く木星を抱えています。夜更けを待てば、東の地平線にうしかい座のアルクトゥルス、遅れておとめ座のスピカが昇って来ます。この2星と、しし座の尾の2等星デネボラを結ぶ形を、春の大三角形と呼んでいます。

●北斗七星は星空の時計

北斗七星は、北極星を反時計回りにめぐっています。だいたい1日で一周となりますから、星を眺めながら時間の経過を知るよい目安になるでしょう。北斗七星がつくるひしゃくの柄は、しなるように曲がっています。このカーブを延長してゆくと、アルクトゥルスやスピカへと連なります。春の大曲線と呼んでいます。

●金星・土星・木星

図にはありませんが、夕焼け空の時刻なら、西の空に金星があでやかに輝いています。空高くふたご座の足元には土星があります。2月中だと夜8時ころ、低くなった金星と正反対の東の空に木星が見えてきます。

その他、展示では、これから見られる天文現象なども加えて、春の星空の楽しみを紹介します。

博物館カレンダー

2004年2月の行事

2	1	日	◎ 特別展記念講演会「食の道具のはなし」	講堂
2	4	水	平塚社寺調査会 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	特研室・市内 プラネ
2	5	木	展示解説ボランティアの会	特研室
2	6	金	古文書講読会	講堂
2	7	土	○ ソバアゲザルを作ろう 天体観察会	科学室 平塚海岸
2	12	木	湘南コケの会 石仏を調べる会	講堂 特研室
2	13	金	古文書講読会	講堂
2	14	土	☆ プラネタリウム「彗星がやってくる」(~4月4日) ◎ 漂着物を拾う会 地質調査会	プラネ 虹ヶ浜 特研室
2	15	日	◎ ろばた話の会 水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会「博物館まつり準備」	展示室 水辺の楽校 講堂
2	18	水	☆ 寄贈品コーナー「春の星空をみよう」(~3月30日) 裏打ちの会 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	展示室 科学室 プラネ
2	19	木	展示解説ボランティアの会	特研室
2	20	金	古文書講読会	講堂
2	21	土	○ 民具でむかしの食体験 ◎ 自然の新聞を作る会	野外 野外
2	22	日	古代遺跡を探す会 地質調査会	野外 野外
2	26	木	石仏を調べる会 植物誌調査会	特研室・市内 野外
2	27	金	古文書講読会 ◎ 星を見る会	講堂 屋上
2	28	土	空襲と戦災を記録する会 相模川の生き立ちを探る会	特研室 科学室

<展示とプラネタリウム>

☆ 冬期特別展「食の民具たち」

昔懐かしい鍋や釜、お膳やお椀など食生活に関する民具を展示し、郷土の食文化を探ります。

会期：2月29日(日)まで

時間：9時～17時(ただし金曜日は19時まで開館)

会場：平塚市博物館特別展示室

☆ プラネタリウム「彗星がやってくる」

今春に相次いで太陽に近づき、明るくなるニート彗星・リニア彗星について。

期間：2月14日(土)～4月4日(日)まで

投影日：土日曜日の11時と14時

☆ 寄贈品コーナー

・「足柄と郡内の道祖神祭写真展」

会期：2月15日(日)まで

・「春の星空をみよう」

会期：2月18日(水)～3月30日(火)

<参加者募集>

◎ 漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時：2月14日(土)9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)

◎ ろばた話の会

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：2月15日(日)(1)13時20分～(2)15時～

場所：展示室民家

参加：自由

2004年3月の行事

3	3	水	平塚社寺調査会	特研室・市内
3	4	木	展示解説ボランティアの会	特研室
3	5	金	古文書講読会	講堂
3	6	土	民俗探訪会「博物館まつり準備」	講堂
3	7	日	古代遺跡を探す会 地質調査会	講堂 清川村
3	11	木	湘南コケの会 石仏を調べる会	野外 特研室
3	12	金	古文書講読会	講堂
3	13	土	◎ 漂着物を拾う会 地質調査会 ○ 体験学習「天体望遠鏡を作ろう」 天体観察会(~14日)	虹ヶ浜 特研室 講堂 函南
3	14	日	民俗探訪会「博物館まつり準備」 水辺の楽校生きもの調べの会	講堂 水辺の楽校
3	17	水	裏打ちの会	科学室
3	18	木	展示解説ボランティアの会	特研室
3	19	金	古文書講読会	講堂
3	20	土	☆ 博物館まつり@(~4月11日)	特研室
3	21	日	◎ ろばた話の会 相模川の生き立ちを探る会	展示室 三浦市
3	25	木	石仏を調べる会 植物誌調査会	特研室・市内 野外
3	26	金	○ 雑貨団プラネタリウム公演 古文書講読会	プラネ 講堂
3	27	土	◎ 星を見る会 ◎ 博物館まつり発表会 空襲と戦災を記録する会	屋上 講堂 特研室
3	28	日	民俗探訪会「八管神社祭礼」	愛川町

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

◎ 自然の新聞を作る会

動植物を観察して新聞を作ります。

日時：2月21日(土)13時～16時

場所：四之宮(前鳥神社～相模川)

参加：往復はがきで2月10日(火)までに申し込む。

◎ 星を見る会

惑星(金星・土星・木星)を見よう。

日時：2月27日(金)19時～20時30分

○ 体験学習「天体望遠鏡を作ろう」

D径、4cmの屈折式天体望遠鏡を作り、金星・土星などを観察します。

日時：3月13日(土)15時～19時

場所：博物館講堂

参加：往復はがきで2月25日(水)までに申し込む。小学生以下の方は保護者同伴をお願いします。

材料代として、1台につき、3000円をいただきます。

定員：20名

◇ 特別展関連行事

◎ 特別展記念講演会「食の道具のはなし」

日時：2月1日(日)14時～16時

会場：平塚市博物館講堂

講師：昭和のくらし博物館館長 小泉和子氏

参加：自由

○ 体験学習「民具でむかしの食体験」

実際に古民具を使って平塚の郷土料理を作り、試食をします。

・第2回「石臼挽きの粉で団子を食べよう」

日時：2月21日(土)10:00～15:00

申込：往復はがきで2月10日までに申し込む

場所：博物館屋外展示場付近(雨天実施)

食材費：100円

定員：20名(多数の場合は抽選)

あなたと博物館 29巻 11号 通算326号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>